



(高松)

調査地は高松城内東ノ丸の南半分にあたる。東ノ丸は一七世紀後半に新たに築かれた郭で、中世にはこの一帯は墓域であつたらしく、この調査地点及び隣接する既調査地点で、火葬墓を中心とする多くの墓を検出している。その後高松城築城期の生駒氏の時代(二五八八―一六四〇)から次の松平氏初期にかけては、この地点は城外で武家屋敷と町人町が存在したことが絵図

香川・高松城跡(1)(東ノ丸地区)

たかまつじょう

- 1 所在地 香川県高松市玉藻町
- 2 調査期間 一九九五年(平7)四月―一九九六年三月
- 3 発掘機関 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 北山健一郎
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 中世―江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

から想定され、この時期の道路や礎石建物などを検出している。

調査地点には、北側にある石垣の延長である可能性が高い石垣が、長さ六六mにわたって存在した。石垣の下部は東ノ丸築成時のもので、その後数度にわたって積み直されていることが判明した。この下部石垣は調査終了後、海砂で覆い現状保存を行なっている。東ノ丸内部の構造は後世の攪乱が著しく判然としない。わずかに江戸時代末期の絵図に描かれた作事丸の一部と見られる礎石建物を検出した。木簡一点の出土したSE〇五は、遺物から生駒期の井戸と想定され、東ノ丸築成以前となる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「。辰太郎



(200)×64×8 019

板目材の荷札木簡である。下端が折れている。表裏とも墨書が認められるが、ほとんど判読できない。僅かに片面で判読できた文字と、木簡中央左より一カ所の穿孔から、紐を通して荷につけたものと判断した。

9 関係文献

香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター『香川県歴史博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡』(一九九九年)
(古野徳久)